



大塚調査官

子供が学びの主人公 学習を教師が「させる」もの→子供が「する」ものへ

調査問題の設定が、とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)の「問題発見・解決能力の育成」を目指した授業改善のヒントになります。

問題の設定自体が、学習活動の例に

相田さんは運動の面から、友達は食事の面から健康について考え、それぞれ自分が知りたいことを調べるために資料を選んでいきます。友達の話を聞いて新たな視点を得た相田さんは、自分にとって重要な言葉に注目して情報を整理し、自分の考えをまとめていきます。

この例のように児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるよう工夫することで、主体的・対話的で深い学びが実現します。

主体的に取り組みたくなる課題になっていることが重要です。

自分が真剣に調べているからこそ、友達が真剣に調べているものに出合ったときに、問いが生まれ、さらに自分で調べようとしていきます。

調査問題を学習指導の改善・充実に生かしましょう

4月18日(火)に令和5年度 全国学力・学習状況調査が実施されました。全国学力・学習状況調査の問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、具体的なメッセージとして示すものとなるよう作成されています。また、調査問題の授業場面の設定自体が、学習活動の例になっています。調査の対象学年だけでなく、全学年を通じた学習指導の改善・充実に生かすための参考として調査問題を活用しましょう。

小学校国語の調査問題を例に紹介します。 ※右側からご覧ください。

活動⑤ 資料を読んで分かったことを基に、これから自分できそうなことを考えてまとめてみる。

四 相田さんは、「資料1」、「資料2」、「資料3」を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分できそうなことを考えてまとめてみようとしています。あなたなら、どのようにまとめてみますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
- 分かったことをもとに、これから自分できそうなことを書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の専用紙は書き用紙なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※の印から書きましょう。どちらの方向でも行を交さないで、続けて書きましょう。

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることで、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものばかり食べたりしていると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のようにより、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーのもとになります。肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、病気がかかりにくくなります。

(栄養素の主な働きと食品の例)

主にエネルギーのもとになる

米、パン、バターなど

主に体をつくるもとになる

肉、卵、牛乳など

主に体の調子を整えるもとになる

野菜、果物など

活動④ 別の視点で調べている友達の話を聞いて、興味をもった資料を読み、情報を整理する。

三 相田さんは、食事の面から健康について考えている友達の話を聞いて、「資料3」に興味をもちました。次は、相田さんが、四角や丸で囲んだり線をつないだりして整理している「資料3」です。相田さんは、何をどのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

活動③ 読んで分かったことをメモにまとめる。

【設問1、二省略】

【相田さんのメモ】

① 持久力を高める運動は、たくさん歩いたり、軽いジョギング、軽いジョギング(続けてとぶ)など(続けてとぶ)

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう!

運動には、筋力や持久力を高めるほかに、病気の抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気分がリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするにいいの?

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のようにより、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、脱臼運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくさん動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休みの日の散歩や、犬の散歩、階段の上り下り、掃除などです。日常生活の中で体を動かす機会をつくることも効果的です。

主に持久力を高める運動の例

主に筋力を高める運動の例

軽いジョギング 縄とび(続けてとぶ) 腹筋運動 腕立て伏せ

活動② 知りたいことを調べるために複数の資料を選んで読む。

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切です。運動の面から考えてみたい。運動をすることで健康にどんないいことがあるのかな。

活動① 課題を把握し、解決の見通しをもつ。

【相田さんの考え】

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすることで健康にどんないいことがあるのかな。

健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができるようなことを考えてまとめる学習活動

② 相田さんの学年では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができるようなことを考えてまとめることになりました。次は、「相田さんの考え」と、「相田さんが知りたいことを調べるために選んだ「資料1」、「資料2」」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

調査問題が伝えてくれるメッセージ②

国語科 学習指導のポイント

目指すべきは、**資質・能力の育成**
言語活動は、そのための手段



言語活動を行うことが「目的」になっていませんか?
教材や言語活動から単元を考えるのではなく、最初に単元で取り上げる**指導事項**を確認しましょう。

設問4 考えの形成

第5・6学年[思考力、判断力、表現力等]
C 読むこと(1)
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

小学校国語・中学校国語の両方で、目的に応じて複数の文章を読み、自分の考えを述べる問題が出題されました。
文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら理解したことに基づき、既存の知識等と結び付けて自分の考えを形成することが大切です。

設問3 情報の整理

第5・6学年[知識及び技能]
(2)情報の扱い方に関する事項
イ 情報と情報との関係付けの仕方、図等による語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

学習指導要領で新設された「情報の扱い方に関する事項」の問題が、小学校国語・中学校国語で2問ずつ出題されました。
文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることが必要です。

～全国学力・学習状況調査を校内研修に活用しましょう～

特徴的な問題

各学校にお届けする「特徴的な問題」では、**小学校国語・算数・中学校国語・数学・英語**の調査問題をそれぞれ3問ずつ取り上げ、学習指導のポイントを紹介しています。
今、求められている「身に付けさせたい資質・能力」を理解し、日々の授業改善につなげるとともに、校内研修等で活用しましょう。

アラカルト研修

全国学力・学習状況調査の調査問題や質問紙、調査結果等を基に、子供たちに付けたい資質・能力やそのための授業改善について、学力向上推進チームと一緒に研修しませんか?

まずは、電話で相談を!

